

団体名

部門・出演順

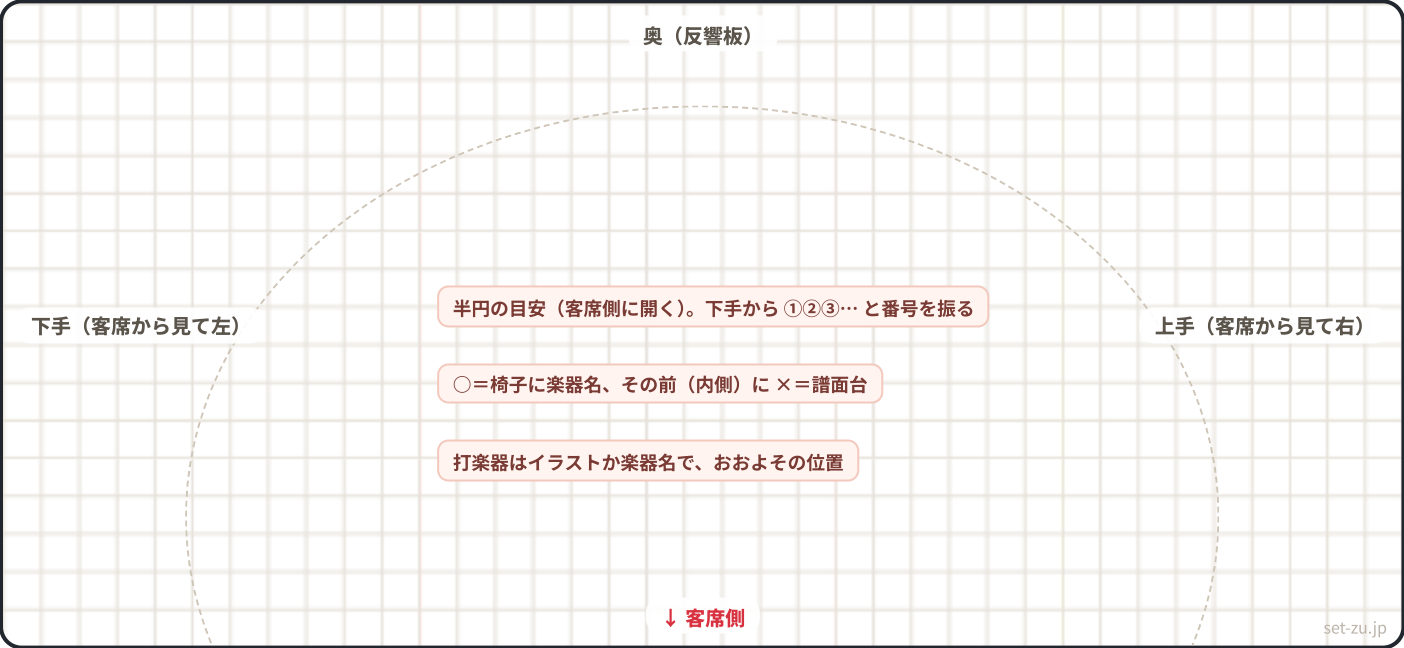
編成（○重奏・楽器の内訳）

曲名（作者者）

① メンバー表（1行=1人。番号は下手から）

番号	楽器（略記）	氏名	立奏／座奏	持ち替え・合図・備考
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				

② 配置図（上手・下手は客席から見た向き。客席に開いた半円が基本）



書き方： ○=椅子（楽器名を書く） ◎=ピアノ椅子 ✕ =譜面台（奏者の前） 打楽器はイラストか楽器名 借りる物・電源に○

③ 数・借用・搬入順・伝達事項

椅子・譜面台の数／立奏・座奏
椅子（ ）脚
譜面台（ ）本
立奏・座奏
持ち替え用・楽器置き用も数える

借用楽器・電源
借りる物に○。部門で借用なしの例も

打楽器の搬入順・運ぶ人
袖から出す順と補助員

伝達事項
譜面台の高さ・椅子の向きなど

アンサンブル配置図 記入例

記入例：中学校・金管八重奏・座奏
Tp3・Hr1・Tb2・Euph1・Tu1
椅子8脚・譜面台8本

団体名
〇〇市立〇〇中学校

部門・出演順
中学校の部・12番

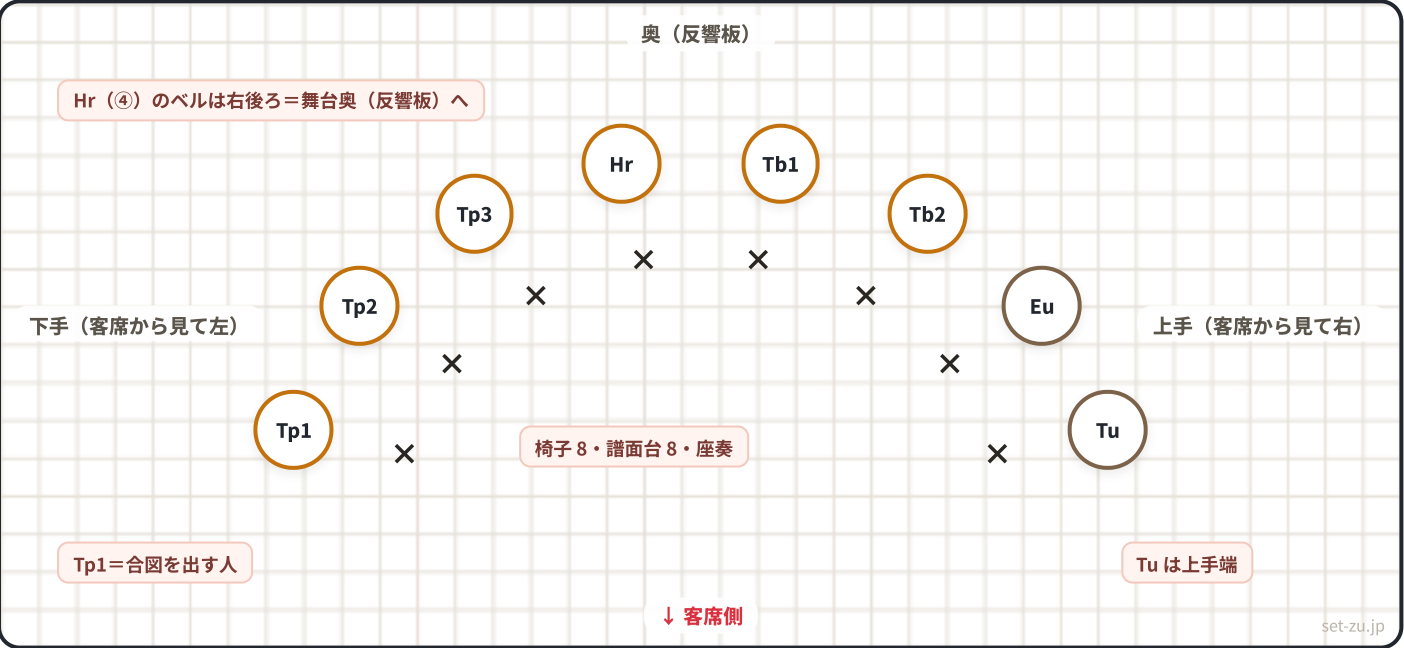
編成（○重奏・楽器の内訳）
金管八重奏（Tp3・Hr1・Tb2・Euph1・Tu1）

曲名（作曲者）
〇〇〇〇（作曲者名）

① メンバー表（1行＝1人。番号は下手から）

番号	楽器（略記）	氏名	立奏／座奏	持ち替え・合図・備考
1	Tp1	佐藤	座奏	合図を出す（出だし・終わり）
2	Tp2	鈴木	座奏	
3	Tp3	高橋	座奏	
4	Hr	田中	座奏	ベルは舞台奥（反響板）へ
5	Tb1	伊藤	座奏	
6	Tb2	渡辺	座奏	
7	Euph	山本	座奏	
8	Tu	中村	座奏	楽器が大きいので上手端

② 配置図（上手・下手は客席から見た向き。客席に開いた半円が基本）



書き方： ○＝椅子（楽器名を書く） ◎＝ピアノ椅子 ×＝譜面台（奏者の前） 打楽器はイラストか楽器名 借りる物・電源に○

③ 数・借用・搬入順・伝達事項

椅子・譜面台の数／立奏・座奏
椅子（8）脚
譜面台（8）本
座奏
持ち替え用・楽器置き用も数える

借用楽器・電源
借用なし・電源なし
借りる物に○。部門で借用なしの例も

打楽器の搬入順・運ぶ人
打楽器なし。入退場は係の指示
どおり
袖から出す順と補助員

伝達事項
Tp1の譜面台は低めに（合図が
見えるように）
譜面台の高さ・椅子の向きなど

アンサンブルの配置 早見表 並び・記号

ホルンのベルは**右後ろ**を向く
楽譜の段の順と**座る順は違う**
○が椅子か奏者かは**凡例で確認**

① アンサンブルコンテストの規定（配置図に関わるもの）

3～8人・独立した指揮者なし・1曲5分以内（超過は失格）・同じパートを2人で演奏しない・共鳴箱と反響板は持ち込めない・電子楽譜は使えない（全日本アンサンブルコンテスト実施規定と各県の実項）。

② 編成別の並び（下手→上手＝客席から見て左→右）

編成	並び（下手→上手）	理由・注意
金管五重奏①	Tp1・Tp2・Hr・Tb・Tuの半円	トランペットを下手、低音を上手にまとめる。ホルンを中央に置くと、後ろ向きのベルが舞台奥の反響板に当たって混ざる
金管五重奏②	向かい合い：Tp1・Tp2とHr・Tbが向き合い、Tuは中央奥	お互いの顔とベルが見えて合わせやすい。ベルが客席を向かないぶん、ホールでバランスを確かめる
金管八重奏	Tp1・Tp2・Tp3・Hr・Tb1・Tb2・Euph・Tu	似たパートを隣に。Tuを中央に入れる型もある（全体がまとまる代わりに、隣のEuphが聞こえにくくなる）
木管五重奏	Fl・Ob・Hr・Fg・Cl（HrとFgを入れ替える型も）	フルートは下手端、クラリネットは上手端。楽譜の段の順（Fl・Ob・Cl・Hr・Fg）とは違う
同族の四重奏	Sax：S・A・T・B／Cl：1st・2nd・3rd・B.Cl	高い声部から下手に並べる型がいちばん多い。SaxにはS・T・B・A（両端で旋律を受け渡す）、B・T・A・Sもある
打楽器	鍵盤を前、太鼓を後ろの前後2列（L字も）	横に広げすぎない。楽器を中央に少し向け、お互いの手元が見えるようにする

どの編成でも共通なのは3つです。似たパートを隣に置く、合図を出す人から全員が見える開き方にする、ホルンのベル（奏者の右後ろを向く）を袖の幕に向けない。並びに正解はなく、決めた並びを図に書くことが大事です。

③ 配置図の記号と書き方（山梨県・千葉県の様式から）

記号・欄	意味	様式の例・注意
○	椅子（座る奏者）	山梨県・千葉県の様式。○の数を「椅子（ ）脚／個」に書く
◎	ピアノ椅子	高さを変えられる椅子。山梨県は「椅子の数はピアノ椅子を含んだ数」
×	譜面台	「譜面台（ ）本」。打楽器の譜面台も数える（山梨県の記入例＝椅子8・譜面台9）
立奏・座奏	どちらかに○	書き忘れが多い項目（山梨県の注意書き）
持ち替え用	椅子の横に注記	楽器置き用の椅子も同じ。奏者の椅子と区別する
打楽器	イラストか楽器名	「できるかぎりイラスト入りで」（山梨県）、「図入りでおおよその位置」（千葉県）
借用品	借りる楽器・電源に○	千葉県の地区予選はティンパニ・チャイム・ドラ・バスドラム・マリンバ・シロフォン・ビブラフォン。木管部門は借用なし

様式があれば様式が最優先です。提出の部数も県で違い（大阪府＝4部・山梨県＝2部A4・千葉県の地区予選＝当日1枚）、山梨県は**提出後の配置変更を認めていません**。○が「椅子」か「奏者」かは、様式の凡例で確かめてください。

打楽器・転換・本番・チェック

当日に止まらないために

セッティングは**1分以内**の県も

打楽器は**一度に全部**運ぶ

提出後は**変えられない**前提で

① 打楽器の置き方（打楽器アンサンブル・管打の編成）

ポイント	置き方	理由
向き	楽器を中央に少し向ける	お互いの手元と体の動きが視界に入る。鍵盤も太鼓もティンパニも同じ
広がり	横に広げすぎず、前後2列に	離れた人とは音の時差が出る。前後にして中央へ向ければ、後ろの人の様子も見える
大太鼓	奏者の右側に他のパート	右側から叩くことが多く、左側の視界が狭い
太鼓類	手前と奥にまとめる	トムは高さ順にこだわらず2個ずつ手前と奥へ。手順の自由度が上がる
鍵盤	L字や手前と奥に	持ち替えの移動を短くする。サスペンドシンバルや吊りトライアングルにも使える
マレット台	楽器より高く、奥に	持つ部分を台からはみ出させるとすぐ握れる。右手で持つ物は右、左手で持つ物は左
譜面台	仲間の合図が見える位置	指揮者がいないので、テンポを出す人の手元が見えることを優先する

② 本番の舞台転換で係に渡す情報

項目	書くこと	理由・例
椅子と譜面台	使う数の合計	持ち替え用・楽器置き用を含めて数える。係はこの数だけ袖から出す
立奏・座奏	どちらか	立奏なら椅子を出さない。全員が同じとは限らないので図で示す
打楽器の搬入順	袖から出す順と運ぶ人	大阪府は打楽器を下手袖から入れ、 一度にすべて運べる よう補助員を用意させている
借用楽器	借りる楽器名に○	借用の可否と台数は要項で確認する（木管部門は借用なしの例）
電源	口数と位置	ビブラフォンのモーターなど。山梨県の記入例はビブラフォンの横に電源
伝達事項	係に頼みたいこと	譜面台の高さ・椅子の向きなど。提出後に配置を変えられない県がある

③ 練習会場と本番ホールで変わること

項目	練習会場	本番ホール
広さ	教室・音楽室の大きさを組める	ステージは広い（千葉県地区予選の会場＝奥行約5.5m×横幅約9.1m）。練習で決めた間隔を図に書く
響き	壁が近く、跳ね返りで混ざって聞こえる	反響板はあるが、自前の反響板・共鳴箱は持ち込めない。ホルンのベルの向きで聞こえ方が変わる
音出し	その場でチューニングできる	チューニングは控室だけで約15～20分（大阪府）。ステージ上のチューナーも不可の県がある
セッティング	時間をかけて直せる	1分以内（大阪府）。椅子の角度と譜面台の高さは練習のうちに決めておく
打楽器	学校の楽器	借用楽器は高さや大きさが違うことがある。足りなければ台やすのこで高さを合わせる

④ 提出前チェック（12項目）

並び

- ☐ 上手・下手は客席から見た向き
- ☐ 合図を出す人から全員が見える
譜面台は低め
- ☐ ホルンのベルを袖の幕に向けない
金管・木管五重奏
- ☐ 似たパートが隣どうし

数と記号

- ☐ 椅子（ ）脚・譜面台（ ）本が図と合う
○と×を数え直す
- ☐ 持ち替え用・楽器置き用の椅子に注記
- ☐ 立奏・座奏に○
- ☐ 借用楽器・電源に○

当日

- ☐ 打楽器の搬入順と運ぶ人を決めた
セッティングは短い
- ☐ 提出の部数とサイズを要項で確認
4部・2部A4・当日1枚など
- ☐ 提出後は変えられない前提で書いた
- ☐ その年度の様式を使った

ファイル名の型（メールで送る大会なら）

団体名_部門_配置図.pdf

例：〇〇中_中学校の部_配置図.pdf（事務局が探しやすい）

セット図くんで作るなら

楽器名を書いた四角を半円に並べ、譜面台の×と打楽器を添えるだけ。PDFと共有URLで顧問やメンバーに渡せます（**set-zu.jp/app/**・登録不要）